

原作 トラン(白夜書房『僕の離婚バトル』より)

サイテーな妻との、サイアクな別れ方

池田眞也

主要登場人物

戸蘭健介(とらんけんすけ)	36
戸蘭景子(とらんけいこ)	32 妻
戸蘭七海(とらんななみ)	0 戸蘭と景子の娘
比留間輝彦(ひるまてるひこ)	36 ……戸蘭の友人
野呂満男(のろみつお)	36 ……戸蘭の友人
市ヶ谷祥太郎(いちがやしやうたろう)	54 ……弁護士
山田一義(やまだかずよし)	52 ……会社社長、景子の愛人
新田豊寛(にったとよひろ)	45 ……会社社長、景子の愛人
都丸肇(みやこまるはじめ)	28 ……妻の弁護士
戸蘭雪乃(とらんゆきの)	37 ……兄嫁
前園俊樹(まえぞのとしき)	50 ……会社の上司
坂本深志(さかもとふかし)	36 ……戸蘭の同僚
神山惣一(こうやまそういち)	31 ……戸蘭の同僚

『サイテーな妻との、サイアクな別れ方』

原作 トラン(白夜書房『僕の離婚バトル』より)  
脚本 池田眞也

### #教会(回想)

戸蘭健介と景子の結婚式。たくさんの人々に祝福されてライス  
シャワーを浴びる。「おめでとう、戸蘭！」の掛け声。

戸蘭の声「自分で言うのもなんだけど、僕は真面目な夫だった」

### #戸蘭のマンション キッチン(回想)

戸蘭と景子のマンションは寝室、六畳間、リビング・キッチンの  
2LDK。

キッチンで景子が夕食の準備をしている。

仕事から帰ってくる戸蘭。

景子、笑顔で戸蘭を迎える。

華やかな食卓。

戸蘭の声「僕はいつでも景子一人だけを愛していた。周囲には奥さんの悪口を  
言ったり、風俗に通ったりする人が結構いるけれど、僕には理解できな  
かった」

### #産婦人科(回想)

生まれたばかりの七海を抱く戸蘭。嬉しそう。

ベッドでそれを見つめる景子。なぜか浮かない表情。

戸蘭の声「飲み会に誘われれば参加したけれど、いつも早めに切り上げて景子  
の顔が早く見たいと思っていた」

### #戸蘭のマンション、キッチン(回想)

午後の光がさしている。

ベビーベッドで寝ている七海。

キッチンにはスーパールのビニール袋に入った野菜やオムツや粉  
ミルクが置かれている。

とりこまれた洗濯物。

居間でアイロンをかけている景子。どことなく所帯じみている。

戸蘭の声「それがいつの頃からか、景子はまったく口をきいてくれなくなった」  
手を止める。

金魚鉢を見つめる。

景子「……(ため息)」

泳ぐ金魚。

#同、トイレ

景子、金魚をトイレの中に放す。

景子「……」

水を流す。

#戸蘭の会社

町工場から大手メーカーまでを相手に、機械部品を扱う工作機械商社、(株)ノジックス機械のオフィス。  
パソコンを見つめている戸蘭。

#戸蘭のマンション、六畳間

景子、鏡台の前に座り、真っ赤な口紅を引く。

#戸蘭の会社

電話をかける戸蘭。

戸蘭「ノジックス機械の戸蘭です。いつもお世話になっております……」

#戸蘭のマンション、六畳間

洋服を着替える景子。

#戸蘭の会社

上着を着てかばんを提げている戸蘭、ホワイトボードに「宇佐美テクノ」と書き込む。外回りに出かけるところ。  
上司の前園が声をかける。

前園「宇佐美さんのとこ景気いいね。一人勝ちじゃねえか」

戸蘭「うちも、さうとう助かってますよ」

#戸蘭のマンション、六畳間

髪をなおす景子。

\* \* \* \* \*  
鏡に映った自分姿を眺める景子。別人のように美しい。  
\* \* \* \* \*

泣き続ける七海。

景子は構わずにメールを打っている。  
携帯の画面の文字「私をタスケテ」

#街

誰かを待っている景子。  
遠くのほうに、その人が向かってくることに気づく。  
にっこり微笑んで手を振る。

#戸蘭の会社、駐車場

戸蘭エンジンをかける。外回りに出かけるところ。  
戸蘭、景子、七海の写った写真が飾られている。

戸蘭の声「なんでこんなことになったのか、ぼくにはわからない」

#タイトル「僕の離婚バトル」

#戸蘭のマンション、寝室

ベビーベッドで眠っている七海。

#同、キッチン、居間

時計は十時を指している。  
時間を気にしながら景子の帰りを待っている戸蘭。  
電話をかけると、近くにあった赤い携帯電話がなる。景子が忘れていったものだ。  
景子の携帯を取るとテーブルに置く。

玄関の開く音。景子、帰ってくる。

戸蘭「お帰り。遅かったね」

景子「……私、いらないから」

景子、戸蘭にホカ弁の入った袋を渡す。

戸蘭「ねえ、景子。どこに行ってたの？ こんな遅くまで」

景子「私が出かけちゃいけないわけ？」

戸蘭「別にそんな意味じゃないけど」

景子「普段は七海ちゃんがいるから、どこにもいけないの。たまに自分の時間を持ちたいからって迷惑なの？ 私はあなたの何百倍もたいへんなのよ。子どもを育てることがどういうことか、あなた何も分かってないでしょ」

戸蘭「そういう口調じゃなくて、普通に会話できないのか？」

景子「ゆつくり楽しんでおいでよ、とか、もっと気持ちよく送り出してくれないんじゃないの？」

戸蘭「だからどこに行つてたのか、聞いたただけだろ！」

景子「……か・い・も・の」

携帯の着信音が鳴る。景子、携帯を取り出して出る。

景子「もしもし……お疲れ様です。……」

戸蘭、テーブルに置かれた携帯と、景子が持っている携帯を見比べる。

戸蘭「……！」

同じ機種携帯が二つ。

景子「……すみません、明日かけなおします……はい、失礼します」

景子、六畳間に入っていく。

戸蘭、弁当を開け一口食べるが、やはり納得がいかない。

携帯をつかむと六畳間の中に入っていく。

#### #同、六畳間

戸蘭、中に入ってくる。

景子、着替えている。黒くて派手な下着。景子あわてて体を隠す。

景子「入ってこないでよ！」

戸蘭「恥ずかしがることないだろ……なあ……」

戸蘭、景子に携帯を見せる。

戸蘭「なんで同じもの二つ持つてるんだ」

景子、携帯をひったくる。

景子「……な、なくしたから新しく作ったのよ。触らないでくれる！」

戸蘭「……(何か言い返そうとするが言葉にならない)」

景子「だったら何？ 何が言いたいのか？」

戸蘭、景子の持ち物を見る。ヴィトンのバッグ、ダイアの指輪。

景子の胸にキスマーク。

戸蘭「……」

景子「そんなに私が信じられない!？」

戸蘭「信じてるよ……だったらいんだよ」

#### #同、浴室

シャワーを浴びている景子。

#同、キッチン／居間

一人でわびしく弁当を食べる戸蘭。

フラッシュバック、ヴェイトンのバッグ。

戸蘭「(独白)あんなの持ってたっけ」

フラッシュバック、下着姿の景子。

戸蘭「(独白)あんなの着てたっけ」

フラッシュバック、キスマーク。

戸蘭「(独白)あり得ない……あいつに限って、そんなことあり得ない」

戸蘭、割り箸を折る。

シャワーを浴びている景子。

#探偵事務所、外、夜

雑居ビルに看板。

#同、中

戸蘭と探偵。

探偵、戸蘭に一枚ずつ写真を見せながら説明をする。景子と山田一義の浮気の証拠写真である。どの写真も景子の顔ははっきり写っているが、山田の顔はぼやけている。

写真、託児所に七海を預ける景子。

探偵「十五日の日曜日、奥さんは、まず最初にお子さんを託児所に預けました」

写真。森林公園の駐車場でベンツに乗る景子。

探偵「次に森林公園に車を停めると、待ち合わせていたのでしょう、白いベントツに乗り込みました」

写真、道を走る白いベントツの後姿。

探偵「そのままベントツは高速に乗ります。ふたつめの〇〇インターで降りて近くのラブホテルに入りました」

写真、ホテルの中に入っていく白いベントツ。山田と並んで歩く

景子。建物の中に入っていく景子と山田。

探偵「十四時三十九分です」

写真、景子と山田が建物から出てくる。駐車場のベンツに乗り込む。

探偵「これが出てくるところです。十六時十三分でした」

震えている戸蘭。

戸蘭「……この男は誰ですか？」

探偵「山田一義五十四歳。実業家です」

戸蘭「……信じられない」

探偵「今後も調査を続けますか？」

戸蘭「は？」

探偵「ですから、裁判を起して離婚なさるつもりですか？」

戸蘭「離婚ですか？」

探偵「ええ」

戸蘭「そんな……考えて直してくれるんだったら、許そうと思っています」

探偵「わかりました。(請求書を渡し)では戸蘭さん、これを書いてある銀行口座に振込んでおいてください」

戸蘭、請求書を見る。

「三十二万八千円」とある。

戸蘭「こんなにですか？」

探偵「四回分です」

戸蘭「……」

#戸蘭のマンション キッチンと居間

景子、キッチンで洗い物をしている。

居間におかれたベビーベッドで寝ている七海。

戸蘭が帰ってくる。景子と目が合う。

戸蘭「ただいま」

景子「……」

戸蘭「……景子」

景子「なに？……なによ？」

戸蘭「たまには、三人で外に食べに行かない？」

景子「どうせまたファミレスでしょ。一人で行ったら……もう私たちいただけきました」

流しに置かれた出前寿司の入れ物。

戸蘭「……お寿司食べたんだ」

景子「……」

戸蘭「……それで俺の分は」

景子「は？ 食べてきてるんですよ。どうぞ外で勝手なことしてください」

戸蘭「好きで每晚遅いわけじゃないんだぞ。腹へった」

景子、戸棚からカップラーメンを取り出すと無愛想に戸蘭の前に置く。

戸蘭、しぶしぶそれにお湯を注ぐ。



戸蘭「……」

ベランダに男物のパンツ、シャツ、靴下が風に揺れている。戸蘭のものだけが取り込まれていない。

戸蘭「俺の着たものには触りたくないってか」

景子「乾いてなかったの。気がついたら自分で取り込んだらいいでしょ」

戸蘭、ベランダに出て洗濯物をつかむ。

### #戸蘭の会社

戸蘭の隣の席で同僚の神山が、「マシンニングセンター」の構想図を見ながら電話をしている。

神山「大変申し訳ありません、大至急書き直しますので……はい、失礼いたします」

神山、電話を切る。

神山(隣に座っている戸蘭に)「宇佐美社長、怒ってましたよ」

戸蘭「え？ マシンニングセンターの構想図？ 嘘？」

神山『嘘』じゃないですよ。これ数字違ってますって」

神山、持っていた仕様書を戸蘭に渡す。

戸蘭「ちゃんとチェックしたつもりなんだけどな……」

神山「戸蘭さん、最近おかしいですよ」

### #車の中

運転をしている戸蘭。外回り中。

目から涙が溢れてくる。ハンドルにしがみついて泣く。

運転できなくなり、後続車からクラクションを鳴らされる。

### #心療内科

医者と戸蘭。

戸蘭「夜も眠れなくて、食事もほとんど取ることができないんです……仕事もミスばかりで……時々死にたいって考えたり……」

### #道

を歩いている戸蘭。「格安航空券」と書かれた看板が目につく。

### #旅行代理店

小規模で綺麗とはいえない店内。客はいない。戸蘭が入ってくる。

私服の男性がカウンターに座り、パソコンに打ち込んでいる。  
戸蘭、その前に立つ。

比留間「いらっしやいませ(戸蘭を見て)……戸蘭！ 久しぶり。まあ座れよ」

戸蘭「近くに来たからさ。結構続いでるんじゃない。このまま社員になっちゃえよ」

比留間「来月いっぱいまでやめる。そろそろ資金もたまったし」

戸蘭「今度はどこ行くんだよ？」

比留間「タイ。チェンマイの上のミャオ族の村」

戸蘭「ヒルマン、相変わらずなんだ」

比留間「懐かしそうに(卒業以来だよな。ちょっと老けた?)」

戸蘭「そう？」

比留間「奥さん元気？ 美人なんだって？」

戸蘭「……そんなことねえよ」

#### #居酒屋

カウンター席で飲んでいる戸蘭と比留間。

戸蘭は激しく酔っている。

比留間「絶対別れたほうがいいって。弁護士頼んでさ」

戸蘭「もう貯金全部使っちゃったよ」

比留間「いくらかかるんだよ？」

戸蘭「とりあえず三十万だと。とりあえず」

比留間「……一生引きずるぞ。ドラマで不倫のシーンが出てくるだけで、頭ん

中真っ赤になるんだよ」

戸蘭「……こんなこと話せるのお前だけだよ」

比留間「なんでも腹割ってくれ」

#### #消費者金融、前

「ひばりクレジット」と書かれた店の前で逡巡している戸蘭。

周りに知人がいないのを確かめると、中に入っていく。

#### #同、店内

無人店に客は戸蘭一人だけ。

恐る恐る機械の前に座ると、モニターから突然女性が現れる。

店員「いらっしやいませ。初めてのご来店ですか？」

戸蘭「……」

#市ヶ谷法律事務所、応接室

ソファに戸蘭と弁護士・市ヶ谷祥太郎が向かい合って座っている。

戸蘭、市ヶ谷に資料と金の入った封筒を渡す。

市ヶ谷、封筒の中を見て札束を数える。三十万円程度。戸蘭、

金額の大きさにため息。

市ヶ谷「確かに……(別室にむかって)清水君」

秘書の清水が中に入ってくる。

市ヶ谷(資料を渡して)「この山田っていう人の住所と会社、全て調べてください」

清水「分かりました」

市ヶ谷「あとこれかけて」

清水、市ヶ谷から受け取ったビデオテープをデッキにかけ、退出する。

モニターに映る景色と山田(山田の顔ははっきり映っていない)。

ラブホテルの駐車場のシーン。寄り添って二人出てくる。

無言の二人。戸蘭は直視することができない。

ビデオが終わる頃、清水が書類を持って再び入ってくる。

市ヶ谷、それを見ながら

市ヶ谷「弱いな」

戸蘭「は？」

市ヶ谷「戸蘭君、ビデオも写真も、男の顔がちゃんと映っていません。本人が

否定する可能性がある。それに継続性が弱い」

戸蘭「継続性？」

市ヶ谷「これだけだと、ホテルに入ったのはたった一回で、それもたまたま奥

さんが気持ち悪くなって、仕方なく休んでいたと言ってくるかもしれないま

せん」

戸蘭「でも、ラブホテルですよ」

市ヶ谷「証拠にはなりません。ただ相手に反論の余地を与えることになる。相手

は社長です。きっと優秀な弁護士を抱えているでしょう」

清水がノックとともに入ってくる。資料を市ヶ谷に渡す。

市ヶ谷、資料を一瞥して

市ヶ谷「山田氏の自宅の価値は一億五千万円だそうです」

戸蘭「もうわかったんですか？」

市ヶ谷「(資料を読む)飲食店チェーンの『株式会社山田観光』、自動車、パソコン・IT機器の『株式会社ジャパン・リース』、訪問販売の『ビューティ

フルライフ株式会社」……二つ持っている会社のうち、リース会社だけ、利益が突出しています」

沈黙。

戸蘭「市ヶ谷先生、それで僕はどうすればいいんですか？」

市ヶ谷「二人が継続して不貞行為を重ねていたという証拠を、もつと集めましょう」

戸蘭「……また探偵に頼むんですか？」

市ヶ谷「それと奥さんの持ち物を徹底的に調べてください」

戸蘭「……」

#戸蘭のマンション、浴室

景子がシャワーを浴びている。

#同、六畳間

戸蘭、浴室の様子を伺いながら景子のバッグを調べる。

同じ機種の携帯電話が二種類。

財布の中にはゴールドカード四枚と十万円以上の札束。

領収証。

戸蘭「エステ……五十八万」

証拠の全てをフィルムカメラに収めていく。

\* \* \*

洋服ダンスの中を調べる戸蘭。

高級時計、宝石類、洋服など次々と高級品が出てくる。

戸蘭「こいつ、どんな生活しているんだ」

#中華料理店

店員に案内される戸蘭。テーブルにはすでに豪華な食事が並んでいる。

比留間「先にいただいてるよ」

比留間の隣には野呂満男がいる。

野呂「ヤッホー、戸蘭」

戸蘭「ノロピー！」

野呂「とんでもない女と結婚しちゃったな」

戸蘭「なんでお前がいるんだよ……ヒルマン、なんで全部筒抜けなんだよ」

比留間「甘いぞ。俺がいままで一度でも人の秘密を守ったことがあったか？」

野呂「一回戸蘭の奥さんに、会って見たかったんだよね。俺、結婚式呼ばれ

なかったし」

比留間「俺も、呼ばれなかったし」

戸蘭「誰が呼ぶか」

比留間、店員をつかまえて注文する。

比留間「北京ダックとふかひれの姿煮」

野呂「イセエビ盛り合わせ」

戸蘭「ねえ、君たち、今日当然割り勘なんだよね」

比留間「いいよ。割り勘ね。でも俺千円しか持ってないし」

野呂「俺も二千円しか持ってないし」

戸蘭「俺も持ち合わせないぞ」

比留間「大丈夫、こいつカード持ってるから」

戸蘭「だいたいノロピーが一番稼いでるはずだろ」

野呂「俺、会社やめちやっただよ。それでヒルマンに弟子入りしたの」

戸蘭「嘘！ 超もったいない！」

比留間「ここにカタギは戸蘭しかいないんだ」

戸蘭「河岸かえるぞ。ヨシギューだ」

比留間「黙れ戸蘭、よく聞けよ。相手は社長だろ。慰謝料しこたま取れるんだ

ろ」

野呂「探偵雇うと一日十万かかるんだろ」

戸蘭「……は？」

野呂、ピンのような小型の装置を戸蘭に渡す。

野呂「最新型だよ。売ってねえぞ」

戸蘭「……」

#同、六畳間

鏡台の前で化粧をしている景子。

#戸蘭のマンション、居間

七海を抱いている戸蘭。六畳間を気にしながら、景子のハンド

バッグの底に野呂からもらったピン型位置探査機を刺す。

#同、玄関

戸蘭、七海を抱いて見送る。

戸蘭「帰りは、何時ごろになる？」

景子「……」

出て行く景子。

#同、居間

戸蘭、無線機を取り出す。

戸蘭「戸蘭です……いま出ました」

比留間の声「了解」

野呂の声「了解」

パソコンの電源を入れる。

#同、外の道く駐車場

マンション前に比留間の車が停まっている。

景子の車が出て行く。

比留間(無線に)「奥さんの車確認。追跡開始します」

#コンビニの駐車場

通りに面した店。

野呂の車が停まっている。

#同、野呂の車の中

無線機から戸蘭が呼ぶ。

戸蘭の声「ノロピー、聞こえますか？」

野呂、無線機を取る。

野呂「野呂です」

#戸蘭のマンション、居間

パソコンの画面、位置確認のページ。地図上に赤い丸、欄外に住所。景子がどこにいるかが一目で分かる。

戸蘭(無線に)「四号線に入りました。北に向かって進んでいます」

野呂「了解、追跡開始します」

野呂、発進する。

#景子の車

運転する景子。

バッグの底に取り付けられた位置探査機。

#道

景子の車を尾行する比留間の車。

途中で野呂の車と尾行をかわる。

# 戸蘭のマンション、居間

パソコンを睨んでいる戸蘭。  
位置確認サービスのページ。

# 道、森林公園近く

景子の車、中に入っていく。  
後に続いて野呂の車、入っていく。

# 同、駐車場

景子、サイドブレーキを引き、エンジンを切る。  
車から降りるとあたりを見回し、白いベントツを見つけ、乗り込む。

# 同、ベントツの中

運転席には山田が乗ってくる。  
景子、助手席に座る。

景子「……」

山田の手が景子の太ももに伸びてくる。景子、その手を払いのける。  
車を発進させる山田。

# 同、野呂の車の中

無線機に話す野呂。

野呂「今、森林公園出ました」  
比留間の声「了解」

# 戸蘭のマンション、居間

戸蘭、七海にたかいたかいをしながらあやしている。ケラケラ笑う七海。  
パソコンの画面、位置確認のページ。赤い点は高速道路を指している。

# 高速道路、ベントツの中

不機嫌そうに窓から外を眺めている景子。

ベンツの後ろには比留間の車が走っている。

#同、比留間の車の中

ベンツを尾行する比留間の車。

ベンツはインターを降りる。比留間もその後続く。

#ラブホテル街

情景

#ラブホテル、駐車場

白いベンツが停まっている。

少し離れたところに比留間の車と野呂の車が停まっている。

#同、部屋

シャワーを終え浴室から出てきた景子。

山田が待っているベッドにむかい、ゆっくりと近づいていく。

七海の泣き声。

#戸蘭のマンション、居間

戸蘭の腕の中で、激しく泣いている七海。

戸蘭は哺乳瓶を顔に近づけるが、お腹はすいていないらしく顔をそむける。

泣き止まない七海。途方にくれる戸蘭。

戸蘭「どうしてほしいんだよ」

#ラブホテル、エレベーターの中

景子と山田並んでいる。

山田、景子の尻をつかむ。

景子「……」

#同、外

寄り添って出てくる景子と山田。

白いベンツに乗り込む。

シャッターの音。

#森林公園、駐車場、ベンツの中



ベントの中で山田と景子、抱き合ってキスをしている。  
シャッターの音。

#同、外

離れたところに比留間と野呂の車が停まっている。  
比留間が写真を、野呂はビデオで景子の姿を狙っている。

#戸蘭のマンション、寝室

ベビーベッドで寝ている七海。

#同、居間

戸蘭、携帯で話をしている。

戸蘭「……許せないよ。あん女、ぶん殴ってやる(玄関の開く音)あ、……じ  
やあ……今日はお疲れ。ありがとう」

戸蘭、電話切る。

景子、入ってくる。

戸蘭「……おかえり」

景子「……七海ちゃんは？」

戸蘭「……寝てる」

景子「……」

景子、去ろうとする。

戸蘭、景子の背中に話し続ける。

戸蘭「今日の七海、ミルクも飲んだし、ウンチもしたし……にやーって何度  
も笑ってかわいかったよ……俺の手、何度も握って……」

景子(遮って)「そのぐらいいつも見てる！ 私は一日中七海のそばにいるん  
です！」

戸蘭「俺はただ報告しよう……」

景子「あなたに言われなくても、毎日経験してるの！ 普段子どもの世話し  
ないから、それぐらいのことわからないんですよ！」

戸蘭「……！」

景子、寝室に入りドアをボタンと閉める。

#夜の街、情景

仕事を終えて家路を急ぐ人、仲間と一緒に飲みに行く人、楽し  
そうな恋人たち……。

景子の声「七海ちゃんは愛情のある子に育って欲しかったから、ずっと我慢し

ていきましたが、もう無理みたいです。あなたには何も期待していません。一人で思う存分楽しんでください」

#道

胸を張って歩く戸蘭。

戸蘭の声「僕は七海には愛情があります。家で見ていれば分かると思います。

景子にも愛情をもって接してきました。僕はやましいことは何もしていません。そういう景子はどうですか？ 今までのことを反省できませんか？ 反省できるなら前向きな話をしたいと思います」

#戸蘭のマンション、居間

戸蘭と景子。

景子「私の何を反省しろっていうのよ！ 好き勝手なことをしているのはあなたでしょう。あなたが反省しなさい！」

戸蘭「……知ってるんだぞ……お前、浮気してるだろ……山田っていう男と」

景子「……」

戸蘭「その男、白いベンツに乗っているんだよな」

景子「そんなの全部でたらめよ……証拠でもあるっていうの!？」

戸蘭、景子の前に不倫の写真を投げ出す。

景子、それを拾って見る。

戸蘭「七海を託児所に預けてラブホテルに行くなんて、お前それでも母親か！」

景子「だからなに？ それでどうしたいの？」

戸蘭「離婚しよう。それしかないだろ」

景子「……」

戸蘭「景子に対して慰謝料を請求します。財産分与もしつかりします。もう一緒に暮らすのは無理だから、実家に帰ってください」

景子「へえ……そこまでするんだ」

戸蘭「山田一義さんにも慰謝料を請求します」

景子「あの人は関係ないでしょ！」

戸蘭「一番の原因は山田さんです。責任を取ってもらいます！」

景子「やめて。誤解なの。私が好きな人は別な人なの」

戸蘭「誰が信じる！ そんなに山田をかばいたいのか？」

景子「山田さんよりもっと地位のある人なの」

戸蘭「お前の言うことなんか信じられないだろ!!……とにかく今後は弁護士から連絡が行くことになるからな」

青ざめる景子。

景子「弁護士？……なんでそんな勝手なことするのよ。一言相談してくれてもいいじゃないの……隠れてコソコソと」

戸蘭「それと、七海の親権は、俺が持つ」

景子「卑怯よ！ あなたなんか子どもが育てられるわけないでしょ！ あの子は私が産んだのよ！ お願いだから、それだけは……」

戸蘭「卑怯なのはどっちだ！ 浮気をしたのはどっちだ！」

景子の目から涙がこぼれる。

景子「……ごめんなさい……さびしかったの」

戸蘭「今夜俺はホテルに泊まるから、明日までに荷物をまとめて出て行けよ。……もう顔も見たくないから、むこうの部屋に行っててくれ」

景子、肩を落として去っていく。

浮かない顔の戸蘭。

景子、ドアの前で振り返る。

景子「……七海ちゃんは絶対に渡さない」

戸蘭「……」

景子、部屋から出てドアを閉める。

### #戸蘭のマンション

景子と数人の引越し業者。

景子が指示を与え、業者たちはダンボール詰めをする。

### #駅

景子、七海を抱きながら、いくつもの荷物を持って階段を上がる。

紙袋が破れてしまう。周りの人に助けられながら、散らばった衣類などを拾う。

### #心療内科

診察を受けている景子。

景子「……突然どうしようもなく落ち込んだり……これからどうなっちゃうんだろうとか……私なんかいなくなったほうがいいのかなとか……」

### #市ヶ谷法律事務所

市ヶ谷と戸蘭。

市ヶ谷「よく頑張りましたね。ではまずは山田と戦いましょう。内容証明を彼

の自宅に送ります。確認してください」

市ヶ谷、戸蘭に内容証明を渡す。

戸蘭「……慰謝料一千万!？」

市ヶ谷(おどけて)「あの人お金持ってそうだから」

戸蘭「……」

市ヶ谷「もちろんこんなに払うとは思っていません。ここからがスタートです」

戸蘭「……」

市ヶ谷「もうひとつ確認です……親権はどうしますか？」

戸蘭「当然僕がもらいます。景子が育てたら、まともな子になりません」

市ヶ谷「個人的な意見ですが、お子さんにとっては母親のそばにいるほうが幸

せだと思います」

戸蘭「娘を託児所に置き去りにして、ラブホテルに行くんですよ。あいつに

母親の資格なんてありません」

市ヶ谷「では戸蘭くんが会社にいる間、お子さんはどうするのですか？ 子ど

もにしてみれば、親がいないのは一緒です。奥さんは実家が近い。見て

くれる人がいます」

戸蘭「だったら僕も仕事をやめて田舎に戻ります」

市ヶ谷「マンションのローンはどうするのですか？ 奥さんが親権を持てば児

童扶養手当がもらえます。……戸蘭くん、借金がかかなりあるんでしょう。

現実を見てください」

戸蘭「僕は自分勝手な人間だと言うのですか？」

市ヶ谷「そうは言ってません。……君にも幸せになる権利があるのです。もっ

と自分のために生きてもいいのではないですか？」

戸蘭「……」

#戸蘭のマンション、前の道

帰宅した戸蘭。見上げると自宅の明かりが消えている。ため息。

#戸蘭のマンション、玄関

ポケットやかばんををあちこち探してようやく鍵を見つけた後、  
中に入る。

戸蘭「ただいま……って言っても誰もいない、と」

#同、キッチン

洗わずにおいてある食器。

留守電の光が点滅している。戸蘭、ボタンを押す。

留守電の声、女性「ケンミン信販です。返済期限を過ぎておりますが、まだ入金を確認できていません……」

戸蘭、ため息。

レトルトのカレーをスパゲッティにかけるわびしい夕食。

#### #同、六畳間

景子の持ち物が運び出され、ガラんと広くなった部屋。

地味なカーディガンが一枚だけ落ちている。

戸蘭、拾い上げると、抱きしめるようにそれに顔をうずめる。

書類の入った紙袋を見つめる。

中を見ると、携帯電話会社の書類が入っている。

戸蘭「携帯電話？……(読む)通話料の割引が五件まで登録できます……」

契約書に「通話料割引」の番号が五つ登録されている。その一つに目をつける戸蘭。

戸蘭「(1を指し)この家、(2を指し)俺の携帯、(3を指し)実家、(4、5を指し)これとこれは……山田と誰だ？ ……!!」

メモをとる。

戸蘭「090—\*\*\*\*—\*\*\*\*。090—\*\*\*\*—\*\*\*\*。」

#### #居酒屋

四人用の掘りごたつ。比留間と野呂が山田からの回答書を読んでいる。野呂の手元にはノートパソコン。

トイレから戻ってきた戸蘭、店員を呼び二人に聞こえないような声で話す。

戸蘭「僕のいない間、こいつら何か頼みました？」

店員(伝票を見て)「さしみの盛り合わせ、やきとり二十本、焼きギョウザ四枚、生タラバガニ鍋、……」

戸蘭(遮って)「全部キャンセル。金輪際、何も持つてこないでください」

店員「ビールのお代わりは？」

戸蘭「いらない。牛乳持ってきてください。三十分後に」

テーブルに戻る戸蘭。

比留間「この男は以外にあっさり不倫を認めたんだな」

戸蘭「でも一言も謝罪の言葉がないんだよ。見下した態度で」

比留間「(読む)『たった三回の関係で一千万円は高すぎます』 それで二百万円か……まあ妥当だろうな。これで納得するんだね」

野呂「ただ、ひっかるんだけど、不倫は認めてるのに、ロレックスをプレゼントしたことや一緒に食事をしたことを否定しているよな」

戸蘭「そこなんだよ」

野呂「肝心なところを認めたんだったら、どうでもいいところで嘘をつく必要はないと……それはなぜかと」

戸蘭「……」

野呂「別の男がいるのではないかと」

戸蘭「(頷く)……」

比留間「ビール遅せえなあ……(店員を呼ぼうとする)」

戸蘭「(遮って)それで、わかったのか？」

比留間「ああ、その前に戸蘭、よく言われることだけど、浮気がばれて追い詰められた人間は怖いっていうぞ。お前も一応、身辺気をつけろよ」

戸蘭「……」

野呂「奥さんの携帯の通話料割引だけど、一つはやはり山田だったよ。それでもうひとつだけ……意外な大物が出てきちゃったんだよね」

戸蘭「大物？」

野呂「『パライソ』って会社知ってる？ 健康食品の」

戸蘭「イルカのCMの……」

野呂、ノートパソコンのモニターを戸蘭に向ける。

野呂「新田豊寛。四十五歳。その社長さん……」

戸蘭、画面に釘付けになっている。

戸蘭「……年商百二十億」

#新田の会社、正門前

の前に立つ戸蘭、比留間、野呂。

広い敷地の工場。何棟もある建物、芝生が敷き詰められた広場

……。

戸蘭「でかい……でかすぎる」

携帯がなる。

戸蘭「もしもし」

景子の声「そんなところで何してるの？」

戸蘭「え？」

景子の声「あなたのこととは何でもお見通しなの」

戸蘭「……俺がどこにいるのか、知ってるのか？」

比留間「奥さん？」

戸蘭、うなづく。

周りを見渡す三人。怪しい人影はない。

戸 蘭「……」

景子の声「それ以上調べたら、絶対あなたを許さないからね」

戸 蘭「……」

景子の声「あなた山田さんがどんな人が知らないでしょ。危ない橋渡ってきてるのよ。キレたらなににするかわからないのよ」

青ざめる戸蘭。

景子の声「もう私の世界を壊さないで！」

野呂、戸蘭の車の底にもぐり、位置探査機を見つめる。

野 呂「戸蘭！」

探査機を投げる。

比留間、戸蘭の肩を叩く。

比留間「ひるむな」

戸蘭、大きく息を吐く。

戸 蘭「俺たちの世界を壊したのは、お前だろ」

景 子「……」

戸 蘭「ニ、ッ、タ」

景 子「どうして知ってるのよ!？」

戸 蘭「困るのか。新田のことを調べられたらそんなに困るのか」

景子の声「誰よそれ……なんのこと？」

戸 蘭「山田よりももつと地位のある男がお前の本命なんだよな。確かにそう

言ったよな」

景子の声「言ってるじゃない。そんなこと言ってるじゃない」

戸 蘭「証拠があるんだ」

景子の声「そんなのウソよ。ウソに決まってるんじゃない」

戸 蘭「お前が反省しない限り、俺は新田に慰謝料請求するからな」

景子の声「……」

電話切れる。

戸蘭の力が抜ける。

#道、夜

人気のない夜道を歩いている戸蘭。

近くに車が駐車している。

派手な格好をした若い女性が戸蘭を追い抜いていく。

女性、突然うずくまり苦しみます。

戸 蘭「どうしました？」

女性、戸蘭にすがりついてくる。

大きく開いた胸元。ミニスカート。戸蘭、目のやり場に困る。

戸蘭「大丈夫ですか？ 救急車呼びましょうか」

女性、首を振る。

女性A子「どこか休めるところに連れてってください」

戸蘭「え？」

女性A子「ちよつと横になれば大丈夫ですから」

女性、腕を戸蘭の首に巻きつける。

戸蘭「……」

戸蘭、女性の腕を振りほどき、近くに駐車している車のところに走っていき、窓ガラスをたたく。

車のエンジンがかかり、強引に発進する。

よろめく戸蘭。

戸蘭、女性A子を見る。

走り去る女性A子。

#同、寝室、深夜

寝ている戸蘭。悪夢にうなされている。

ピンポーン、と呼び出し音が鳴る。

眠り続ける戸蘭。

ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン、徐々に早くなる。

目を覚ます戸蘭。時計を見ると午前三時。

ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン、……。

起き上がるトラン。寝室から出て行く。

#同、玄関

ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン、……。

戸蘭「誰だ？」

のぞき穴から見ると、景子が立っている。怒りの表情。

景子「開けなさいよ。そこにいるんでしょ！」

戸蘭「何時だと思ってる！」

景子「証拠を出しなさいよ。持ってるんでしょ」

ドアを激しく叩く音。

ガンガンガンガンガンガンガンガンガンガンガンガンガン……。

景子「開けなさい。開けなさい！」

戸蘭「やめろ！」





からね」

戸蘭「七海を巻き込むな。子どもを人質にするのか。死ぬんだったら、お前一人で死ぬ！」

景子「……(圧倒される)」

戸蘭「七海を巻き込むな！」

#同、オフィス

戻ってくる戸蘭。オフィスの中に緊張が走り、誰もが黙り込んでしまう。

前園が戸蘭を呼ぶ。

前園「ちよつと、戸蘭くん」

前園と戸蘭、社長室に入っていく。

#同、社長室

戸蘭と前園が入ってくる。

戸蘭「失礼します」

社長「……」

戸蘭「申し訳ありませんでした」

社長「いろいろな事情があることは聞いているけれど、……これ以上会社に迷惑をかけるな」

頭を下げる戸蘭。

#同、オフィス

自分のデスクに座る戸蘭。

周囲のものは誰も声をかけない。不自然なほど戸蘭のほうを見ようともしない。

同僚B子「戸蘭さん、(困った表情で)二番にお電話です」

戸蘭「だれから？」

同僚B子「さあ」

戸蘭、電話に出る。

戸蘭「戸蘭です」

取立て屋の声(ドスの聞いた声で)「阿佐ヶ谷商事ですけれど。いい加減払っていただけませんかねえ」

戸蘭「申し訳ありません。そちらの件は大至急対処いたしますので……」

受話器を置く戸蘭。大きなため息。

前園がやってきて耳打ちする。

前園「今日は帰れ。仕事にならんだろう」

戸蘭「大丈夫です。午後一で宇佐美テクノとアポありますし」

前園「神山に行かせることにした」

戸蘭「え？」

前園「しばらく外れろ」

戸蘭「……」

前園「まわりに影響するんだ」

隣の席で黙々とキーボードを打つ神山。戸蘭を見ようともしない。

#田舎道

疾走する戸蘭の車。

#戸蘭の車の中

無表情で運転する戸蘭。アクセルを踏む。

#海、がけの上の公園

しょんぼりと荒波を眺めている戸蘭。

携帯を取り出し電話をかける。

戸蘭「もしもし」

#パチンコ店

比留間と野呂がパチンコをしている。ふたりとも大勝していて足元にはたくさんさんの玉が積まれている。

比留間、携帯を取る。

比留間「はい……おお戸蘭！ どうしたんだよ」

#海、がけの上の公園

戸蘭「……別に用事はないけどさ、何してるかなって思っ」

比留間の声「……今、お前どこにいる？」

戸蘭「え？」

#パチンコ店

比留間「だから、どこにいるって？」

#海の近くの駐車場

の隅で両足を抱えて座っている戸蘭。  
前に車が止まり、比留間と野呂が出てくる。

戸蘭「……」

比留間「なにやってんだよ、バーカ」

野呂が戸蘭にウェットスーツを投げつける。

戸蘭「これは？」

野呂「いいから着がえろよ」

#海、夕方

ロングボードをかかえて海に出ている戸蘭。波が来てもテイク  
オフできずに激しく水面に叩きつけられる。

岸で見えていた比留間と野呂が大きな声を上げて笑う。

戸蘭、黙ってる、と岸の二人をにらみつけると、再び沖に出て  
行く。

野呂「戸蘭って昔からあんなふうだったよな」

比留間「ああ」

野呂「……」

波と格闘している戸蘭。乗ることはできない。

#戸蘭のマンション、玄関、夜

帰ってきた戸蘭。鼻歌まじり。

戸蘭、ドアを開けて中に入る。しばらくすると、あわてて戻っ  
てきて表札を確認する。確かに『戸蘭』と書いてある。

#戸蘭のマンション、中

たんす、机、食器、ソファ、テレビ……家財道具一切持ち運ば  
れている。

トラン専用の古いパソコンだけが残され、ごみが散乱している  
床。

戸蘭、携帯を取り出し、電話をかける。

景子の声「もしもし」

戸蘭「どういふつもりだ？」

景子の声「荷物を返してもらいました。全部私の持ち物でもあるのよ」

沈黙。がっくりと力が抜ける。

戸蘭「なあ景子……俺の何がいけなかったんだ」

景子の声「……何も文句を言わずにいかにも頑張ってます、無理して明るく振

舞ってますっていう態度が嫌だったの！ 何を頼んでもすぐする態度が嫌だったの。仕事から帰って疲れているのに、いかにも疲れていませんっていう態度が嫌だったの。……」

そのときバンと玄関が激しく開く。

携帯を持った景子がいきなり入ってくる。

景子、表情も変えず背筋を伸ばしたまま歩いてきて、戸蘭の前に立つ。

景子「卑屈で、わざとらしくて、嘘っぽくて、そういうことをされればされるほど、あなたへの思いがさめていったわ。それにお金がなかった。生活するためにはどれだけお金が必要なのか、あなたは全くわかってない。お金がなくてもなんとか頑張ろうとしか言わなかったじゃない！ 頑張ろうだけじゃ、生活なんてできないわ！」

戸蘭「それで浮気をしたのか！」

景子「だから何よ。浮気をしてどこがいけないのよ。あなただってしてるでしょ」

戸蘭「俺は浮気をしたことなんてないぞ」

景子「嘘よ、そんなの！ 浮気をしたことのない人間なんて一人もないわ！ 誰でもしていることじゃない！ あなただって煙草をポイ捨てしたことあるでしょ！ 飲酒運転したことあるでしょ！ 浮気なんてそのレベルじゃない！ なんで私ばかり責められなきゃいけないのよ！」

戸蘭「そう思い込んでるだけだ。ほとんどの男は浮気なんてしないんだ」

景子「あなたなんか私の気持ちかわかるわけじゃないじゃない！ あなたのほうが、何百倍も私のことを苦しめたのよ！ あなたが悪いのよ！ 被害者ぶらないでよ！ あなたが加害者なのよ！ 私が一番大切にしてきたものを、あなたが台無しにしたのよ！」

景子、その場に倒れこんで泣き崩れる。

戸蘭、景子を見ている。憎しみと愛しさがまじった複雑な表情。

戸蘭「……」

景子の声「戸蘭さん……」

#戸蘭の会社(回想 六年前)

外回りから帰ってきた戸蘭、デスクにもどってくる。景子がやってくる。

景子「戸蘭さん」

戸蘭「はい」

景子「声をひそめて）ちょっと前に宇佐美テクノの社長から電話あったんです

けど」

戸 蘭 「忘れてた！ ……怒ってました？」

景 子 「ええ、相当」

戸 蘭 「やっべえ」

景 子 「NCフライスの仕様書ですよね。（紙袋を戸蘭に渡す）バイク便手配しておきました。もう来ると思っています」

戸 蘭 「ありがとうございます。助かります」

戸 蘭、あわてて電話をする。

戸 蘭 『ノジックス機械』の戸蘭と申します。お世話になっております……くすつと笑って去っていく景子。

### #同、昼休み(回想)

社員たちがくつろいでいる。

景子がブラインドタッチでパソコンを打っている。

戸蘭がやってくる。

景 子 「どうでした？」

戸 蘭 「なんとかごまかしました。景子さんのフォローのおかげです。感謝しますよ」

景 子 「感謝してください」

戸 蘭 「こんど何かおごりますね」

景 子 「楽しみに待ってます。期待しないけど」

近くで話していた坂本と神山が話しかける。

神 山 「戸蘭さんちって何もないですよ」

坂 本 「テーブルがないのはびっくりしましたよ」

景 子 「え？ テーブルもないんですか？」

戸 蘭 「あるよ。テーブルぐらい」

神 山 「あれはダンボールというものです。あと鍋もないです」

景 子 「うそ？」

神 山 「包丁貸してくださいって頼んだらはさみが出てきましたからね」

戸 蘭 「いいんだよ。男の一人暮らしなんだから」

景 子(強い口調で)「ダメです。……心がすさみますよ」

戸 蘭 「不自由しているわけじゃありませんから」

景 子 「ああ、もう！ 戸蘭さんがそんなにだらしのない人だとは知りませんでした」

戸 蘭 「……すみません」

景 子 「じゃあ、私がつき合いますから、テーブル買いに行きましょう」

戸蘭「……は？」

景子「今度の日曜日、暇ですか？」

呆気にとられる男衆。

### #駅のロータリー(回想)

地味な格好で待っている戸蘭。

景子がやってくる。

景子「待ちました？」

戸蘭「いえ……全然」

おしゃれしてきた景子、見とれる戸蘭。

### #家具屋(回想)

景子、楽しそうにテーブルや鍋などを選んでいる。

普段着で来てしまった戸蘭。景子と並んで歩くのが居心地が悪い。

至近距離で見る景子の横顔。

景子、金魚鉢を見つける。

景子「かわいい……これ買いましたよ」

戸蘭「ええ？」

景子「戸蘭さん、金魚っていう感じだから」

景子、招き猫とトランの顔を比べ、いたずらっぽく笑う。

### #観魚店

戸蘭と景子、顔を並べて水槽で泳ぐ金魚を眺める。

### #戸蘭のアパート(回想)

六畳一間の部屋。

家具類を持った戸蘭と、食材の袋を持った景子入ってくる。

戸蘭「どうぞ……まさか来てくれると思ってたから……」

散らかった部屋。あちこち汚れている。

景子「……素朴な暮らしなんですね」

戸蘭「……(落ち込む)」

景子「綺麗にしちゃいますよ。いい機会ですから」

戸蘭「はあ……」

\*

\*

\*

\*

台所のフローリングに雑巾をかける景子。

\* \* \*  
窓ガラスを拭く景子。 \* \* \*

\* \* \*  
風呂を洗う景子。 \* \* \*

\* \* \*  
きれいになった戸蘭の部屋。 \* \* \*

\* \* \*  
六畳間で寝転んでテレビを見ている戸蘭。 \* \* \*

\* \* \*  
台所ではエプロン姿の景子がてんぷらを揚げている。 \* \* \*

\* \* \*  
戸蘭、ちらちらと景子の後姿を見る。 \* \* \*

景子「そういうことは食べてから言ってください」  
しかし一人前しかない。

戸蘭「景子さんの分は？」  
景子「私は家で食べるからいいんです」

戸蘭「そうなんですか」  
景子「どうぞ、あたたかいうちに」

戸蘭「じゃあ、いただきます」  
ひとくち食べる戸蘭。

戸蘭「……うまい！」  
景子「またあ。戸蘭さん優しいから」

戸蘭「本当です……こんなおいしいもの初めて食べました」  
景子「大げさです！ お世辞でも嬉しいです……じゃあ、私帰ります」

戸蘭「もうですか？……送りますよ」  
景子「いいんです。食べてください」

景子、立ち上がる。  
戸蘭「なんかすみません。……ありがとうございました」

戸蘭「お疲れ様でした。また明日」  
戸蘭「……」

部屋から出て行く景子。  
残された戸蘭。一人で食事を続ける。

### #戸蘭の会社、朝(回想)

戸蘭、タイムカードを押すと景子のデスクにやってくる。  
パソコンを打っている景子。



戸蘭「景子さん、おはようございます」  
景子「おはようございます」

景子、にっこり笑って挨拶すると、再び仕事に戻る。馴れ合わない態度。

戸蘭「昨日は、どうもありが……」

電話が鳴り、景子が取る。

景子『ノジックス機械』です……」

戸蘭、去っていき自分のデスクに座る。

坂本と神山が近寄ってくる。

坂本「どうでした？」

戸蘭「なにが？」

神山「またとぼけて。……本当は一緒に出勤したんでしょ」

戸蘭「してないよ。だから違うんだって」

坂本「いいよなあ、俺も景子さんと鍋買いたいなあ……」

神山「戸蘭さん、社内と、取引先の男全員を敵に回しましたからね」

戸蘭「何言ってるんだよ」

笑いながら話す三人。

戸蘭、景子を見る。

パソコンを打っている景子。

### #戸蘭のアパート、夜(回想)

戸蘭が一人で、金魚を眺めながら考え事をしている。

金魚鉢の表面に息を吹きかけ「景子」と書いてみる。

携帯がなる。

戸蘭「はい……あ、景子さん！」

景子の声「ごめんなさい。夜遅く」

戸蘭「どうかしたんですか？」

景子の声「(小声で)お願い……助けてください」

### #車の中(回想)

運転する戸蘭。焦っている。

景子の声「今夜飲み会だったんですけど、男の人から、送っていくってしつこ

くされているんです」

戸蘭の声「店の名前はなんですか？　すぐ行きます」

### #繁華街(回想)

車を止め、景子を探す戸蘭。  
携帯で景子に電話するがつかない。  
走る戸蘭。

\* \* \*  
景子を探す戸蘭。走る。  
\* \* \*

戸蘭「……！」

景子と男Aがいるのを見つける。  
酔っている男Aは嫌がる景子の腕をつかんで話さない。

戸蘭「おい、なにしてるんだ！」

男A「……？」

戸蘭「い、嫌がつてるだろ。その手を離せ」

男A「なんだテメエは？」

戸蘭「お、俺は……そ、その人の……」

男A・景子「……」

戸蘭「俺は、その人の、彼氏だ！」

男A「……カレシ!?」

景子「戸蘭さん！」

男A、思わず景子の手を離す。

景子、戸蘭のもとに駆け寄る。

戸蘭、景子の手をつかんで逃げ出す。

### # 繁華街(回想)

を手をつないで走る戸蘭と景子。

### # 車の中(回想)

赤信号で止まる。

戸蘭、助手席を見る。

景子、眠っている。あどけない寝顔。

### # 景子のマンション、エレベーターの中(回想)

沈黙。

会話のきつかけをつかめずにいる戸蘭。

景子「今日、初めて知ったんですけど、(くすりと笑って)戸蘭さんって私の  
彼氏だったんですね」

景子、戸蘭を見つめる。

景子「戸蘭さん、私のこと、どう思っているんですか？」  
戸蘭「……好きですよ……僕は、景子さんが、好きです」

二人の距離、縮まる。

景子、目を閉じる。

そつと触れ合う唇。

戸蘭、すぐに景子から離れる。

景子、戸蘭をまっすぐに見つめる。

戸蘭「す、すみません」

景子「へえ、戸蘭さんって、キスした相手に謝るんだ」

戸蘭「景子さんは、僕のことどう思っているんですか？」

景子「内緒です」

戸蘭「え？」

景子「待たせたバツです。自分で考えてください」

景子、自分から戸蘭に口づける。

長いキス。

景子の背中をしっかりと抱きしめる戸蘭。

到着したエレベーター。扉が開く。

景子「ここがいいです。これ以上行くと、戸蘭さんに襲われちゃうから」

戸蘭「……」

去っていく景子。

戸蘭「開」ボタンを押しながら景子の後姿を見つめる。

振り返る景子。

景子「私たちって、相思相愛だったんですね」

景子の姿見えなくなる。

立ちつくす戸蘭。

#戸蘭のマンション

ほこりのかぶった金魚鉢。

#携帯電話の画面

メールの文字「七海が入院しました」

#道

走る戸蘭。

#病院、小児科窓口

駆け込んでくる戸蘭。七海の病室を聞く。

#同、七海の病室、外

個室のドアをノックする。

景子の声「誰ですか？」

戸蘭「俺だよ」

景子の声「……入ってください」

中に入る戸蘭。

#同、七海の病室、中

入ってくる戸蘭。

足に点滴をしている七海。

その横で座っている景子。目の下にくまができています。

戸蘭「様子は」

景子「だいぶ落ち着いた……先生も(ほっとして泣き出す)もう命に別状ないだろうって」

戸蘭「……大きくなったな」

景子「(七海に)パ。パ。が来てくれたよ……あ！」

おすわりをして笑っている七海。

景子「ねえ、見て、今日初めてできたの」

戸蘭「抱っこしてもいいかな？」

景子「いいわよ」

戸蘭、七海を抱っこする。

戸蘭「重くなったな……かわいくなったな……」

戸蘭、七海を抱きしめる。

戸蘭「ごめんね……七海、本当にごめんね」

景子、父子が抱き合う姿を見て涙ぐむ。

景子「あなた」

戸蘭「なに？」

景子「……色々悪かったと思ってるわ」

戸蘭「……」

景子「でも、過去のことを振り返っても、どうにもならないと思うの。私は七海ちゃんを一生かけて愛する。この子だけのために生きていくつもりなの。いろいろ疑っているのはわかるけれど、今は本当に何も無いの」

戸蘭「……」

景子「七海も病気がちでしょ。落ち着いた生活がしたいの。しっかり働きた

いの

戸 蘭「……」

景 子「……私のことはゆるさなくてもいい……でも七海のために……」

戸 蘭「……」

景 子「……私を解放してください」

景子、頭を下げる。

景 子「お願いします」

戸 蘭「……景子、卑怯だよ……こんなときに……」

頭を上げない景子。

戸 蘭「……終わりにしよう。……景子に慰謝料を請求しないし、新田を調べ  
ることもしない。親権も放棄するし、養育費もきちんと払うよ」

景 子「本当ですか？」

戸 蘭「弁護士に話すよ」

景 子「ありがとう……ありがとう」

#同、中庭

紙コップでコーヒーを飲んでいる戸蘭。  
天を仰ぐ。

#市役所

戸蘭、職員C子に書類を渡す。

職員C子「住民票ですね……少々お待ちください」

職員C子、奥に引つ込むとパソコンにデータを入力する。

C子の顔色が変わる。戸蘭をちらつと見ると、こっそり上司の  
ところに行き、なにか深刻そうに話している。ちらちらと戸蘭  
を見る。

戸 蘭「……」

後ろに並んでいた人たちは次々と手続きを済ませていく。  
やがてC子が足取り重く近づいてくる。

戸 蘭「……」

職員C子「……(小声で)あなたは、DV加害者のため、DV防止法に従い、書類  
をお渡しできません」

戸 蘭「は？……どういうことですか？」

職員C子「これ以上、こちらではお答えできません」

戸 蘭「俺がDV加害者!?……妻が訴えたんですか」

職員C子「ですから、こちらではお答えできません」

戸 蘭「……(独白)あの女、そこまでするのか」

#市ヶ谷法律事務所

戸 蘭と市ヶ谷。

市ヶ谷「奥さんが訴えを取り下げない限り、手の打ちようはないでしょうね」

戸 蘭「僕は妻に暴力を振るったことも、暴言をはいたこともありません」

市ヶ谷「それは、わかっています」

戸 蘭「ろくに捜査もしないのに認定してしまうなんて絶対におかしい！」

市ヶ谷「この法律を必要としている女性が数多くいるんですよ。こうでもしないと彼女たちは救われない。戸蘭さんの気持ちはわかります。しかしこれがDV防止法というものなのです」

戸 蘭「……」

#イメージ

高笑いする景子。

景 子「おほほほほほほほ……」

#警察署

戸 蘭「もう頼みません」

立ち上がる戸蘭。

市ヶ谷「……」

戸蘭、その場に倒れる。

市ヶ谷「大丈夫ですか？……清水君、救急車呼んで！」

#病院、病室

ベッドで寝ている戸蘭。

病室に女性が入ってくる。

女性が戸蘭の枕元に座る。兄嫁の戸蘭雪乃だ。

目を覚ます戸蘭。

戸 蘭「……姉さん」

戸蘭起きあがろうとするが、雪乃がとめる。

雪 乃「寝てて」

戸 蘭「わざわざ来てくれたんですか？」

雪 乃「汗びっしょり」

雪乃、ハンカチで戸蘭の顔や首を拭く。

雪 乃「やせたね……(置かれた紙袋をさして)着替えとか持ってきたから、ど

うせ何も用意してないんでしょ」

戸蘭「……」

雪乃「ジュース飲む？」

戸蘭、うなづく。

雪乃、ストローを紙パックにさし、戸蘭に飲ませてやる。

戸蘭「俺って、だめな人間ですね」

雪乃「そんなことない。……優しいことは、素敵なことよ」

戸蘭「もうどうなってもいいですよ。静かに暮したい」

雪乃、戸蘭のおでこに触れる。

雪乃「熱は下がったね……疲れてるだけだから。今はなにも考えずに休んで」

戸蘭「……」

雪乃「もつと私たちに頼っていいのよ」

戸蘭「……」

#戸蘭の会社、倉庫

戸蘭、ひとりで検品している。

#駅前ロータリー

バス乗り場にむかっつとぼとぼと歩く戸蘭。

近くに立っていたサラリーマンB男の前に、彼の妻の運転する

車が停まる。

サラリーマンB男「ただいま」

子ども「パパ、おかえり」

車に乗り込むサラリーマンB男。

#戸蘭のマンション、前の道

歩いてくる戸蘭。ふと見上げると部屋に明かりがついている。

戸蘭「……え？」

#同、廊下

自分の家のドアの前に立ち、開けるのをためらっている戸蘭。

赤ちゃんの泣き声がする。

あたりを見回す戸蘭。

若い母親が赤ちゃんをあやししながら通り過ぎる。

母親「すみません。すぐに黙らせますので」

戸蘭「いえ、僕にも子どもがいますから」

去っていく母子を見つめる戸蘭。  
中に入る。

#同、中

ぐつぐつ沸騰する音、湯気。  
恐る恐る中に入っていく戸蘭。部屋の中を見ると……。

#同、居間

家具のない殺風景な部屋。ダンボールで作った簡易テーブルの上に野菜や酒。床に置かれた鍋が湯気を立てている。  
比留間と野呂が勝手にあがりこんで食事をしている。

比留間「よう、戸蘭」

野呂「おかえり」

呆れる戸蘭。苦笑いながら彼らの前に座る。

戸蘭「お前ら……どうやって入ったんだよ？」

野呂「ちよろいもんだよ。このマンション、セキュリティ全然だめだぜ」

比留間「すっぽん買ってきたんだ」

比留間と野呂、ビールや食事を戸蘭の前に出す。乾杯する三人。

比留間「ほら、食えよ。二時間たつぷり煮込んだからな。ちようどいいぞ」

戸蘭、一口食べる。

戸蘭「……うまい」

比留間「それでこれからどうするんだよ？」

戸蘭「うん……もう協議は終わらせることにした」

比留間「条件は？」

戸蘭『慰謝料請求はしない、財産分与もしない、親権は妻に譲り、さらに養育費も通常より多く支払う』

比留間「むこうからの回答は？」

戸蘭「源泉徴収を見せて欲しいって言ってきた」

野呂「……お前完全になめられてるよ」

比留間「どういうこと？」

野呂「戸蘭が下手に出た事につけこんで、養育費を吊り上げようとしている。  
搾れるだけ搾るつもりだよ」

比留間「マジかよ」

戸蘭「弁護士もそう言った。でももういいんだよ」

比留間「そこまでされて黙ってるのかよ！ちよつと甘すぎるんじゃないやねえか？」

野呂「学習能力なさすぎるぞ。ガツンと言ってやれ、ガツンと」



戸蘭「景子はもともと他人の気持ちの分かるやつだったんだ！俺だって、心から好きで結婚したんだ。もしかしたら今だって……とにかく、もう疲れたんだ。こんなことは嫌なんだ！」

我に返る戸蘭。

戸蘭「悪い、大声出して……お前ら漬物食うか。実家から送ってきたんだ」  
戸蘭、立ち上がりキッチンに行く。

#同、キッチン

発泡スチロールで作った簡易冷蔵庫の中を開ける戸蘭。

戸蘭「……！」

中には野菜や果物、レトルト食品など食べるものがたくさん詰まっている。

#同、居間

戻ってくる戸蘭、座る。

戸蘭「助かるよ……正直もう限界だったんだ」

テーブルに置いてあったはさみで漬物を切る。

野呂、戸蘭からはさみを受け取ると、タオルで拭いてねぎを切る。

比留間、戸蘭のコップにビールを注ぐ。

比留間「まあいいじゃねえか。今日は楽しく飲もう」

野呂「戸蘭がそう決めたんだったら、それでいいんだよ」

トランの携帯がなる。

メールが着信している。

戸蘭「景子だ」

比留間と野呂も覗き込んで文面を見る。

景子の声「今月の養育費がまだ振り込まれていません。あなたの七海に対する愛情は、その程度のものですね」

画面を凝視する戸蘭。

立ち上がる戸蘭。家から出て行く。

比留間「おい、戸蘭」

比留間と野呂、追いかける。

#同、階段

駆け下りる戸蘭。そのうしろに比留間と野呂。

同、駐車場

走ってくる戸蘭。

コンクリートに携帯を投げつける。

戸蘭「どこまで馬鹿にすれば気が済むんだ！」

戸蘭、振り返り比留間と野呂を見る。

戸蘭「いい人は、もうやめた。徹底的に闘ってやる」

#のぼる朝日

#戸蘭のマンション

鏡の前でネクタイをしめる戸蘭。

\*

\*

\*

\*

スーツを着て、出て行く。

#同、前の道

マンションから出てくる戸蘭。

戸蘭「……！」

比留間と野呂が待っている。

戸蘭、比留間の車の後部座席に乗り込む。

#比留間の車の中

運転する比留間、助手席の野呂。

後部座席の戸蘭は目を閉じて精神統一をしている。

#市ヶ谷法律事務所、前の道

戸蘭、比留間の車から降りる。

#市ヶ谷法律事務所

ドアをあけて中に入る戸蘭。

市ヶ谷が迎える。

市ヶ谷「お待ちしていました、戸蘭くん」

戸蘭「よろしくお願ひします」

市ヶ谷「どうぞこちらへ」

市ヶ谷、戸蘭を応接室に通す。

#同、応接室

市ヶ谷と戸蘭、ソファに座る。

市ヶ谷「今日で最後にしましょう」

戸蘭「市ヶ谷先生。……ずっと考えたんですが、やはり親権はあきらめることにします。子どもの幸せを考えると、やはり妻と一緒に暮らすほうがいいと思えました。めちゃくちゃな女ですが、子どもへの愛情は、嘘じゃないんです」

市ヶ谷「本当にいいんですね」

うなづく戸蘭。

電話が鳴る音。

清水の声「市ヶ谷法律事務所です……」

ノックとともに清水が入ってくる。

清水「都丸先生です」

市ヶ谷「かけ直します……(戸蘭に)待たせてやりましょう……今日は徹底的に攻めます」

戸蘭「はい」

市ヶ谷「こう見えてもね、戸蘭くん。私は、あなたの奥さんと弁護士に対し……かなり怒っているんです」

市ヶ谷、微笑むと戸蘭の手をしっかりと握る。

時計の針は十時前をさしている。

市ヶ谷、ヘッドセットマイクをつけ、電話をテーブルに置く。

市ヶ谷、腕時計を見る。

市ヶ谷「行きましようか。準備はいいですね」

戸蘭、うなづく。

市ヶ谷、電話をする。

呼び出し音。

スピーカーから聞こえる声。

女性の声「都丸法律事務所です」

市ヶ谷「弁護士の市ヶ谷祥太郎です。都丸先生はいらっしゃいますか」

女性の声「少々お待ちください」

保留音。

緊張する戸蘭。

都丸の声「お待たせいたしました。都丸です」

市ヶ谷「では早速はじめたいのですが、そちらに戸蘭景子さんはいらっしゃいますね」

#市ヶ谷法律事務所

## #都丸法律事務所

ふたつの事務所のクロスカッティング、分割画面などを交えながら。

戸蘭と市ヶ谷、景子と都丸が電話を通じての話し合い。

都丸「待機しています」

市ヶ谷「では最初にお聞きしたいのですが、戸蘭さんの源泉徴収を見たいという意図をお聞かせください」

都丸「それは養育費が確なのか確かめておきたいと思ったからです」

市ヶ谷「こちらは通常よりも高い養育費を支払うとお伝えしましたよね。それなのにさらに金額を上げるつもりだったのですか？」

都丸「そういうわけではありません」

市ヶ谷「では確認をして下げるつもりだったのですか？ そうじゃないですよ！」

都丸「それは……」

市ヶ谷「ここまで譲歩しているのに、さらに上乗せですか！」

都丸「……」

市ヶ谷「なめないでいただきたい！」

都丸、景子、戸蘭「……」

市ヶ谷「と、戸蘭くんが言っております」

市ヶ谷、戸蘭を見て微笑む。

都丸「勘違いをしていただいては困ります。戸蘭さんと景子さんはまだ夫婦なんです。源泉徴収を確認することに、なんの問題もありません」

市ヶ谷「甚だ遺憾です。今までの協議を全て白紙に戻し、再度協議をしないおすことにします」

都丸「白紙ってそんな無茶な」

市ヶ谷「我々は、あらためて、景子さんに対して慰謝料請求、財産分与、そして……」

都丸、景子、戸蘭「……」

市ヶ谷「親権を求めます！」

景子「親権！ ちょっと待ってよ……それどういうこと！」

都丸が立ち上がる景子を抑える。

都丸(景子に)「だめです。感情的になつたら相手の思う壺です」

都丸、無理やり景子を座らせる。

都丸「話が違います。横暴すぎます」

市ヶ谷「文書を交わしたわけではありません。そちらも、それ以上のものを求めてきたではありませんか」

景子「親と子を引き離すっていうの！ 七海は絶対に渡さない！」

興奮している景子。

都丸「一度電話を切ります。よろしいですか」

市ヶ谷「ではそちらからかけ直して下さい」

電話切れる。

#市ヶ谷法律事務所

戸蘭と市ヶ谷。

戸蘭「あんなに強く言っていないんですか？」

市ヶ谷「あそこをスタートにして交渉に入ります。次の電話からかなり具体的な話が出るでしょう。私は最大限有利になるように持って行きますが、

最後は戸蘭くんの意志を尊重します。よく考えて結論を出してください」

戸蘭「わかりました」

電話が鳴る。

隣の部屋から清水の声。

清水の声「市ヶ谷法律事務所です……少々お待ちください」

清水入って来る。

清水「都丸先生です」

市ヶ谷、電話を切り替える。

市ヶ谷「市ヶ谷です」

#市ヶ谷法律事務所

#都丸法律事務所

市ヶ谷事務所の戸蘭と市ヶ谷、都丸事務所の景子と都丸。

都丸「先ほどは失礼いたしました……今、話をしましたが、景子さんは前回の条件で納得すると言っています。それでお願いします」

市ヶ谷、メモにペンを走らせて戸蘭に渡す。

メモの文字「ここから交渉が始まります。妥協点を見つけ出してください」

市ヶ谷「……おっしゃる意味が理解できませんが」

都丸「は？」

市ヶ谷「何度も言うようですが、白紙に戻したのです」

都丸「……」

市ヶ谷「いいですか都丸さん、こちらの条件を出します。まず慰謝料請求五百万円。財産分与もしっかりといただきます。そして親権も求めます。当然親権がこちらならば、養育費を請求します。あなた方がしたように、

通常よりも高い養育費を請求します」

都丸「常識はずれだ！」

市ヶ谷「都丸さん！ あなた方はやりすぎた。戸蘭くんを甘く見すぎましたね」  
都丸「……」

沈黙。

都丸「……お互いの条件が違いすぎます。本人同士で一度話し合いをさせたほうがいいのではないのでしょうか」

市ヶ谷、電話を保留にする。

#市ヶ谷法律事務所

戸蘭と市ヶ谷。

市ヶ谷「どうしますか、戸蘭くん？ 断ることもできますよ。正直って私は

おすすめしません」

戸蘭「景子と話をさせてください。夫婦として最後の話し合いをしたいんです」

市ヶ谷、戸蘭を見つめる。電話の保留を解除する。

#市ヶ谷法律事務所

#都丸法律事務所

市ヶ谷事務所、戸蘭と市ヶ谷、都丸事務所の景子と都丸。

市ヶ谷「もしもし、戸蘭くんは奥さんと話してもいいと言っています。電話をかわります」

市ヶ谷、ヘッドセットマイクを戸蘭に渡す。

市ヶ谷「これからの発言は取り返すことができませんよ。いいですね」

戸蘭「もしもし」

景子「お久しぶりです。……あなたはどういうつもりなんですか」

戸蘭「それはこっちのセリフだ。景子はそれだけのことをしたんだ。責任は取ってもらうからな」

景子「いい加減にしてください！ あなた約束したじゃないの！ だいたい五百万なんて大金あるわけないでしょ！ 七海の生活もあるのに、そんなにお金がほしいの!? あなたが言ってることはね、七海と二人で死ぬってことなのよ！」

戸蘭「七海は俺が育てるから心配しなくていいです。景子はどうなっても関係ないです」

景子「そんな無茶苦茶なことよく言えるわね！ そんな人間だから浮気されるのよ！」

戸 蘭 「そんな人間ってどんな人間だ！ 浮気をしたのはお前だろ！ 浮気をした人間のいうセリフか！ 心で反省しないのなら、金で反省してもらう。それがお前の償いだ！」

景 子 「どんなことがあってもあなたを許さない」

戸 蘭 「それは脅しか！ 弁護士が聞いてるんだぞ。言葉に気をつけろ！」

景 子 「お金なんかないわよ。親権だって渡さない。取れるものなら、取ってみなさい！ 鬼ね。鬼だわ……最低最悪の鬼！」

戸 蘭 「そうか。俺は鬼なのか……だったら本当に鬼になってやるよ」

戸 蘭、メモにペンを走らせて市ヶ谷に見せる。

「新田」と書かれている。

市ヶ谷、うなづく。

戸 蘭 「もしも景子がこの条件を飲まなかったら、……」

景 子 「……」

戸 蘭 「慰謝料を新田さんに請求します」

景 子 「……ふざけないでよ……新田さんは関係ないでしょ」

戸 蘭 「新田って金持ってそうだよな」

景 子 「新田さんは関係ないの。あなたのレベルの低い妄想なの。……あなたには良心っていうものがないの!？」

戸 蘭 「良心をなくしたのはお前だろ」

景 子 「新田さんに迷惑かけたくないの！ 奥さんも子どももいるのよ！ あなたは新田さんの家庭を壊そうとしているのよ！ そんなことしたら苦しむのは家族なの！ あなたの行動一つでみんなが苦しむことになるのよ。そんなことしないで……お願いします」

沈黙。

景 子 「あなた……わかってくれた？」

戸 蘭 「……関係ないね」

景 子 「……」

戸 蘭 「自業自得だ！」

景 子 「……」

戸 蘭 「俺は、新田を、潰す！」

景 子 「……卑怯者……裏切り者……人でなし……こんな男だと知っていれば結婚しなかったのに」

戸 蘭 「……」

景 子 「あなたはなぜ今しゃべっているの？ おかしいでしょ。あなたが死ぬば……あなたが死ぬば……すべてが解決するのよ」

戸 蘭 「……」

景子「死になさい！ 今すぐ！」

戸蘭「……」

景子「死になさい！ 今すぐ！」

戸蘭「……それがお前の本心か！」

その場に倒れこむ景子。震えている。

都丸、景子を支え、電話を保留にする。

#市ヶ谷法律事務所

電話から流れる保留音。

市ヶ谷、戸蘭からヘッドセットマイクを受け取る。

ぐつたりとソファに倒れこむ戸蘭。

電話の保留音終わる。

都丸の声「景子さんはかなり感情的になってしまいました。お詫びいたします  
……」

市ヶ谷と都丸、再び協議を始める。

弁護士同士の最終的な話し合いへ……。

戸蘭の声「それ以後は弁護士同士で話し合い、後日僕たちは正式に離婚した」

#戸蘭の会社、オフィス

パソコンを打っている戸蘭のもとに、若い女子社員が来て質問する。

親切丁寧に指導する戸蘭。

女子社員、笑顔で礼を言い去っていく。

戸蘭の声「最終的な条件は、景子に慰謝料は請求しない。親権は景子が持つ代わり、僕は月一回の面会権を与えられる。養育費は最初の条件から四分の一の額を僕が支払うことで決着した」

#海

サーフィンしている戸蘭と比留間と野呂。

戸蘭は波に乗れず激しく転倒する。

笑う三人。

戸蘭の声「山田からは、慰謝料として二百万円が振り込まれた。結局、勝ったのか、それとも負けたのか、今はまだ分からない。ただ確かなことは、僕は大きなものを失ったということだ」

#戸蘭のマンション、朝



布団で寝ている戸蘭。まだ完全ではないが徐々に家具や日用品が戻りつつある。

目覚ましがなる。

戸蘭の声「これが僕の離婚バトルだ」

## #公園

休日の昼下がり。ベンチに座って待っている戸蘭。

駐車場に景子の車が止まる。

戸蘭「……！」

車から七海を抱いた景子が降り、戸蘭のほうに向かってくる。

景子「ほら、パパだよ」

景子、七海を下に降ろすと、ヨチヨチ歩きで戸蘭のほうに向かっていく。

戸蘭「歩けるようになったんだ！」

戸蘭、七海に駆け寄り、抱きしめる。

戸蘭「こんにちは七海」

七海「言葉にならない声」

戸蘭「(景子に)久しぶり。元気だった」

景子「ええ。(七海に)七海ちゃんパパに会えるのを楽しみにしていたんだよね」

七海「ダダ(パパのつもり)」

笑う戸蘭。

戸蘭「七海、すべりだいしよか」

戸蘭、七海を連れて行く。

\* \* \*

戸蘭、七海とすべりだいで遊ぶ。

景子、戸蘭と七海が遊ぶ姿を見ながら笑っている。

\* \* \*

ぶらんこで遊ぶ戸蘭と七海。

\* \* \*

ベンチでまどろんでいる景子。

\* \* \*

砂場で遊んでいる戸蘭と七海。

景子の声「ななみちやーん」

景子が七海を呼ぶ。

景子「もう時間になったから。パパとバイバイしよか」

戸蘭「(七海に)いこか、七海」

その場を離れようとしないう七海。

\*

\*

\*

\*

車に乗ろうとする景子と七海を戸蘭が見送る。

戸蘭「今日はありがとう」

景子「(七海に)パパにバイバイって」

七海手を振る。

戸蘭もにっこり笑って手を振る。

景子「じゃあまた来月……元気だね」

戸蘭「景子もな」

景子、車に乗る。

エンジンがかかり、発進。去っていく景子の車。

戸蘭は景子の車をいつまでも見送っている。

エンドロール流れて……。

了